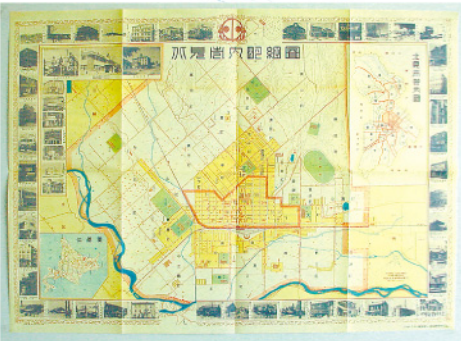


ふるさと交友録

～伊藤 公平～ 10

「ふるさと」には、いろいろなひとがいる。この「交友録」では、月1回のペースで公平さんの“大切なひとびと”を紹介していただきます。



伊藤公平(いとうこうへい)北見市在住、郷土史研究者。私設図書館「麦の風文庫」と「野草苑があでんきたみ」主宰。平成13年～20年、みんとに「ふるさと四方山話」「ふるさと・そぞろ歩る記」を連載。

オサム一家の話は一寸お休みする。



二月、昭和二八(一九五三)年五月発行の「北見市内明細図」を復刻出版した。戦後十年ほど「家庭北見新聞」を発行した北原輝義さんの作図で、表面が「北見市内明細図」。この前年、北見市は全面的な字区改正を行った。それがこの地図となった。四色刷。裏面は「市内中央部拡大図」。市の中心部と上常呂・仁頃地区の官公署・商店街・学校・病院・社寺など克明に記録されている。

戦後の挫折から立ち直って八年ほどである。

また、現在の北見市を形づくった駅前再開発 中心市街地開発事業直前の現況を知ることのできる貴重な地図である。市役所・警察署・農事試験場・西小学校・競馬場・野球場などは、当然の事ながら位置が違う。地図のまわりに五十五枚の建物写真があるが、日清製粉以外は二棟も現存していない。

この時、私は十五歳。よく三角点(緑ヶ

丘森林公園)に登った。停車場通(中央通)を三号線まで上って右折すると右は墓地、現北中前で左折すると佐藤さんのりんご園、その先で右折して山(緑のセンター)につき当って左折するとほどなく三角点の登山口。林内の小川沿いにくらか進むと登り坂。稜線まで登って左折すると五分ほどで頂上。裁判所前の我が家から小一時間ほどの道である。

その日は白雲点々、みごとな青空と薫風。山頂からは北見盆地の大方が俯瞰できる。一面に田んぼが広がり、その中に石北線と池北線が縦貫している。田んぼの水はそよ風にさざ波立ってキラキラ・キラキラと輝き、時には白雲を映したりした。端野を出発した十数両連結の客貨列車は北見の市街地で二寸の間見えなくなり、やがて農事試験場あたりから田んぼの中に、もくもくと白煙の尾をひく機関車が見え、風が途切れると田んぼはその姿を逆さまに映したりもした。

地図には、そんな思い出の一日も刷り込まれているようである。